

## 【 第2回中標津町自治推進会議報告 】

日時：平成31年2月18日（月）19:00～21:00

場所：中標津町役場 3階 301号会議室

出席者：9名（中標津町自治推進会議委員4名、ファシリテーター1名、事務局4名）

※傍聴2名

### <会議次第>

1 開会

2 挨拶

3 議題

（1）前回の会議の振り返り

（2）勉強会

（3）意見交換

（4）振り返りと確認

（5）その他

4 閉会

### <配付資料>

① 平成30年度第2回中標津町自治推進会議次第 [省略]

② 来年度以降の自治推進会議の組み立てについて～会議で何をするか？～（別途掲載）

③ 自治基本条例・自治推進会議2021年度（平成33年度）までのスケジュール [省略]

④ 広報掲載記事「中標津町自治基本条例を学ぼう！（その12）」 [省略]

○まちづくり町民アンケート [省略]

○勉強会事例資料 [省略]

---

### <会議結果報告>

1 開会

2 挨拶：佐々木会長

※議題に入る前に事務局より、

欠席された委員についての報告を行いました。

また、事前に東田ファシリテーターより、会議内容の録音について希望があったことについて説明を行い、出席者より了承を得ました。

### 3 議題

[進行：東田ファシリテーター]

#### (1) 前回の会議の振り返り

◆配付資料を参照し、前回の会議で話し合われた「来年に考えること」を確認しました。

○来年度以降の自治推進会議の組み立てについて～会議で何をするか？～

[資料②(別途掲載)]

- ・自治基本条例を守っているかのチェックをしよう
- ・行政・議会での成果についてチェックをしよう
- ・他の地域の進行状況について知りたい
- ・広報掲載記事のタイトルを柔らかい表現にしたい
- ・区割りについて、その内容を整理したい
- ・意見交換会や勉強会のようなものができれば

このようなことができる『2年間になれば・・・』ということを話し合った。

↓

結果、今日は勉強会をすることに。

次回の会議では、2年間の組み立てをしようということになった。

#### (2) 勉強会

◆事例資料を参照しながら、各発表者からの説明を受けました。

[※発表順]

○東川町のこと：佐々木会長

○ニセコ町のこと：本間副会長

○静岡県牧之原市のこと：東田ファシリテーター

(3人からの事例紹介が終わったところで、確認連絡)

⇒東田ファシリテーター

今日は、3人の方が欠席となっているので、次回の会議では、今話した内容について、もう少し短くして再度話をしてもらうか、あるいは、配付される今日の会議の議事録を見てもらい、質疑応答を行うかもしれない。

### (3) 意見交換

⇒東田ファシリテーター

勉強会の内容に関する質疑応答や、発表の事例を聞いてどう思ったか、「こうありたい」「来年度こうしよう」のような話をしていきたい。

#### 東川町のこと

⇒委員より

- ・東川町は、まちの憲法に『写真文化首都』『写真の町』とついていることが、すごいと思う。
- ・かなりくだけているのでは。でも、ホームページを見ると、東川町自体が『写真の町』と謳っているので、東川町イコール写真の町となっているのでは。

⇒東田ファシリテーター

じゃあ、中標津町の自治基本条例も名前を変えたいということなの？

⇒委員より

- ・そうではなく、単純に『すごい』との感想。

⇒東田ファシリテーター

すごいとなれば、今度は、『自分達の自治基本条例をどうしようか？』という話にどうしてもなるので・・・

⇒委員より

- ・東川町は、まちとしてそういうかたちをつくってくれたことはすごい。その後、動いていくかいかないかはまた別としても、町民の意識なのでは。

#### 区割りのこと

⇒東田ファシリテーター

自分は、都市マスタープラン（以下、都市マスと表記）の策定にも関わったが、町内会の区割りとは別に、いくつかの町内会をひとつにした『まちづくり協議会』というのを全町的に区分けをして作り、そこを機能的に動かしていくということを都市マス上では言いたかった。それをベースにしたいということがあって、それを町民の皆さんに提案したのだけれども、結果的には実現しなかった。都市マスの方では、現在、3つのまちづくり協議会がある。

↓

現在、都市マスの見直しの時期で、再び自分も関わっている。もちろん町内会の皆さんに納得してもらわなくてはできないが、都市マスでも、別なかたちでの区割りができれば、これまでも違う動きが出てくるのではと淡い期待を持っている。それには、各方面に了承してもらわないこともあり、ハードルはいくつもある。

⇒委員より

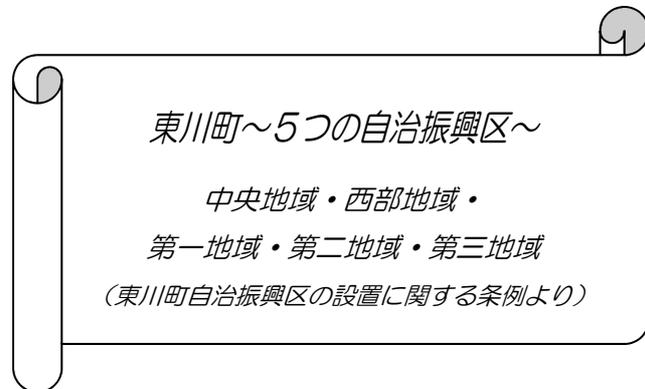
- ・町内会とまちづくり協議会の区割りも違う。町内会を分断して、まちづくり協議会ができていいる。できれば、きちんと線引きをして、町内会が集まってまちづくり協議会ができればと。そして、できれば『校区に倣って』というようなかたちができるかと非常にやりやすいのではとも思う。
- ・最近の防災の取組『真冬の災害（避難所）体験』では、まちづくり協議会がサポートを行った。協議会から声をかけて、参加となった町内会もあった。町内会でもそれぞれ校区が別れてしまっているところもあり、今回はそこには声をかけなかったということもあったので、できればそこがピタッとうまくはまるといいと思う。コミュニティスクールの運営協議会の関係でもそう思う。
- ・区割りのことについて自治基本条例の中に盛り込むことができれば、いいなと思う。「そういうかたちに向かって、まちづくりをしてくれませんか？」という内容のことを。
- ・都市マスと自治推進会議が連動しながら、進めることができればいいなと思う。それが理想ではとも思う。
- ・小学校と中学校は、それぞれ運営協議会があって、学校は、小学校中学校一貫教育に進んでいくので、中学校の校区のまとまりかなと思う。それを機にどれかに統一しても良いのではとも思う。
- ・中学校区は、広陵、中標津、計根別の3つ。
- ・中学校区では大きすぎるので、さらに2つに分けるなどはどうか。基本があって、そこに町内会がピタッとハマるかたちではどうか。

⇒委員より

- ・東川町の自治振興会は？

⇒佐々木会長より

校区は大きく分けて3つくらいでは。  
中央地域自治振興区は大きく、  
人口も多く、学校もある。



### 市民ファシリテーターのこと

⇒委員より

- ・防災の取組『真冬の災害（避難所）体験』の関係で、近々反省会をする予定だが、その時の進行をどうやっていこうかと考え中。自分が、ファシリテーターになるとすれば、意見を出せないし…。  
書くだけ書こうかなとも考えている。15～6人くらいは集まる予定。  
そうなる、意見を一人ずつ出して行って、2周すると時間がいっぱいになってしまう。グループ分けをしたほうが良いのではとも考えている。
- ・会議の方法を考えるだけでもエネルギーがかかる。最後は、まとめなければならないし。

⇒東田ファシリテーター

自分ひとりでやろうとすると、はまってしまう。相談しながらすることができればいいが。

牧之原市の市民ファシリテーター45人の良いところと思うのは…、

一緒に会議の現場には行けないけれど、

会議に行くファシリテーターは1人だけど、そのやり方、進め方を考えるのはまた別において、会議用の模造紙の項目などを書いていてくれる人は別において、「これを持って行って、会議をして来て！」と市民ファシリテーター『チーム』があって、動けていること。

市民ファシリテーター全体にいろいろな会議が委ねられていると考えていること。

中標津町では、いろいろなファシリテーターが来たとしても、単独で動いているが、牧之原市のように地元でチームでファシリテーターがいるということはすごく違うと思う。

⇒委員より

- ・ファシリテーションが浸透していくと、会議では、参加者みんなの意見が集約されるのでは。一人が一度意見を言ったら終わりの会議ではなく。

⇒東田ファシリテーター

そこは、本当に、牧之原市のファシリテーターの仕組みは違うなと思う。

地元を愛しているから、行政を攻撃するのではなく、一緒に組み立てていく。

行政が全然関係ない時もあるって、自分達で組み立てていかなければならない時もある。

町内会のことなどではそうなる。

メンバーも変わるし、書くのが得意な人は、ひたすら、模造紙にベースを書いていく。話すことが得意な人は前に出て話す。今回、話を聞いてきた人は、4年目くらいの人だった。

⇒委員より

- ・これまで中標津町でもファシリテーションの講座を2回ほど開催していて、ここにいる委員の方や自分も受けた。その時には認定証もあった。

⇒東田ファシリテーター

そのようなことをまた、中標津町で行うには、どのようなハードルがあるかを考えなければならない。中標津町の町民の方は、できそうな気がする。

⇒委員より

- ・牧之原市は、資格を取った後に、それぞれで、相談する場所があることはすごい。話し合っ
- てやっているのはすごい
- ・その人達は、一年に1回とか2回とか3回とか集まっているのでは。情報交換できていることはいいなと思う。

- ・この前、学校で熟議をした時には、問いを「どうやって出すのか？」と困ってしまって、先生に出すのをお願いした。アイスブレイクもやってもらった。  
一緒にできる人がいれば気楽。「ここはお願いしちゃおう、上手な人に」とできる。

#### 条例改正のこと

⇒東田ファシリテーター

ニセコ町とところの説明でもあったが、『基本条例の改正』ということについては、皆さんはどう思いますか？

⇒委員より

- ・自治基本条例は、『育てる』条例。
- ・条例の改正が必要となった時に、自治推進会議で改正をするのか？改正の必要性があると提案するのか？

⇒東田ファシリテーター

提案をすることになる。

⇒委員より

- ・必要性があるので、提案しますと。  
いきなり、「私たちが変えます」という話にはならないということ。



[会議風景]

⇒東田ファシリテーター

ここのメンバーが、自治推進会議として、「条例を変える必要がある」「条例を見直して欲しい」と思ったら、平成33年度中に検討を行って答申を出す。もちろん一年間をかけなくてもいいけれど、平成33年度は、その年度ということ。

⇒委員より

- ・平成33年度に見直しをして、平成34年度から変わるということか。そして町は、自治推進会議の答申を受けて、こうしようとなる。
- ・あと3年で、時間はあるけど、会議をどうするかの中身的なことはこれからでは。

⇒東田ファシリテーター

今日は、まずは勉強会。

そして、ニセコ町みたいに本格的に改正するということもあるし、その横で違うことをベースに話し合うということもある。もちろん、ここだけで話し合えることではないが、先ほどの区割りのことを話題にすることも。ファシリテーションのことを話し合うことも。この3つと、プラス、町民にどれだけPRできているかということかなと思う。

◆ここで、前回の会議で宿題となっていた、広報紙掲載の『中標津町自治基本条例を学ぼう！』について自分の周りの人に聞いてくることの結果を確認し合い、その感想を話し合いました。

⇒委員より

- ・紙にするとやっぱりいいですね。口では聞きづらいので…。
- ・皆さんも紙にすると、聞きやすかったのでは。
- ・広報紙に載っていることを知らない人が多かった。
- ・知っている年代層は60代だった。しかし60代でも知らない人は知らない。何かしら立場に立つ人は知っている。それ以外の人知らない人も。
- ・自治基本条例を知っていて、広報紙に載っていることも知っているけれど、「読むことはない」という人もいた。はっきりそう言われた。「いっぱい字が書いているからね」とも。
- ・アンケートをやってみて、浸透されているかということ、浸透されていないのが現状なのではと思った。
- ・「文字だらけで見る気がしない」と言われた。「箇条書きにすると何か方法はないのかい？」とも。
- ・知らないと答えた人で、その人は、今回質問したことで、「広報紙を気に留めてみようと思った」と言ってくれた。
- ・全問正解の人が1人いた。その人は一緒にまちづくりに関わってくれている人で、「それで覚えただけでもそうでもなければ分からない」とも言っていた。「言葉を聞いたことはあるけれど原則があるということは知らなかった」とも。

⇒東田ファシリテーター

今の結果からすると『知られていない』ということですね。若手も知らないけど、年配の人知らない。

次の会議で、また、他の委員さんにも聞いてみてですね。

⇒委員より

- ・せっかくアンケートをやるのだから、答え合わせができれば良かったと思った。基本原則が書かれた紙1枚でもあれば。
- ・「答えはこれ」と1枚渡すことができれば良かった。
- ・紙を渡したその人は覚えてくれる。

[アンケートについて]

⇒委員より

- ・まだ、時間があるので、3月12日の会議まで、できる人はアンケートをジワジワと続けてはどうか。
- ・その時、答え合わせの紙を渡す。人に会うたびにやる。ジワジワと。  
せっかくなので、アンケートに答えてもらった時に、相手にその紙を渡すことで、それが広報活動になるようにしたい。
- ・この次までとしなくても、来年度の1回目の会議まででもどうか。

[広報紙記事内容について]

⇒委員より

- ・アンケートの結果からも、広報紙は見えていないようなので、変えたほうが良いのでは。
- ・四コマ漫画みたいのものを描ける人はいないですかね。
- ・基本原則の3つの言葉がいつも載っていても良いのでは。単純に、『これが大切』と載っているイメージで。次年度に向けてでも良いので考えたい。

⇒東田ファシリテーター

「内容を考え直した方がいいよね？」ということですね。

⇒委員より

- ・でも、条例の解説はやめる訳にはいかないけれど……。

(4) 振り返りと次回の会議についての確認

～今日の自治推進会議として、確認したこと・決めたこと～

アンケートのこと・広報紙記事のこと

■宿題のアンケートは、引き続きジワジワと続けていく。まずは、次の会議3月12日まで。

そして、基本原則の解答も1枚ものを事務局で用意して各委員に渡す。

■更に、来年度の1回目の会議までもジワジワと続けることについては、今日会議に出席している委員の人達はOKということ。

■広報紙は見えていない人も多いようなので、変えたほうが良いのでは。ただ、そのタイミングや、どのような内容にするかについては、今日ここで決めることができないので、来年度にきちんと話し合う。変えるということは決める。

3月12日の進め方について

(資料③スケジュール表参照)

⇒東田ファシリテーター

来年度の話の前に、次回3月12日をどう進めるかというところの話をしたと思います。

今回は、板書のとおり2年間の組み立てをやるうということだった。

その2年間は何？ どこ？ となる。

平成31年度と平成32年度に何をやるか。

平成33年度は、結果的には条例の見直しについて検討して、答申を出さなければならない年度になる。

PRの話とか、勉強会の話とか、区割りのこととかファシリテーターのこととか体制のこととか具体的な話もしなければならぬし、検討もしていかなければならぬ2年間にもなる。

この2年間の進め方を『戦略的』に考えないといけぬ。また同じ話にならないよう、

きちんと考えようということ。

★次回の会議では、

スケジュールの表をみんなで見ながら、

できれば、いつもは輪になって話をしているが、机を合わせて話し合いたい。

模造紙や付箋を使って。

↓

例えば、ここでフォーラムをやらなければならぬ、

ここで勉強会をやらなければならぬとか、もしここで勉強会をするとしたら、

それに向けてこんな進め方をしていかなければならぬとなどを考える。

例えば、ポケット版をつくりたいとなったら、

どういうふうに進めていこうかということの話ができればいいと思う。

スケジューリングが、かなり関係してくる。

口で言っている、なかなかまとまらないのでは思っている、机を寄せて、

模造紙に付箋で書いて貼って、その付箋をまた動かしたり、そういう作業ではどうか？

来年何をやるの？ ということ、この間みんなで話し合った内容では…

- ・ 議会や行政の成果について知りたい
- ・ 他の地域の進行状況を知りたい。
- 今日は勉強会をしたが、もっと知りたいとなるのか。
- ・ 意見交換会 等々

2年間については、

もう少し、ここをつめながらスケジューリングをしなければならぬのでは思っている。

3月12日で、全部が決まる訳ではないのかもしれないが。

かなりここをきちんと話し合いをしてスケジューリングをしないと行けぬ。

来年度、何回集まるかも決まっていない。

前のフォーラム開催の時は、ワーキンググループをつくって集まった。

「何をしたいのか？」ということと、

じゃあ「何回集まるのか？」ということも考えなければならない。

そのことを、3月12日にできればと思っている。

ということ、ファシリテーター側として思ったのですが、どうですか？

スケジュールだけのことでなくて、

来年度以降に「何をやるか？」ということをもう少し話し合わないと、

スケジュールの話にもならないのではないかと思う。

⇒委員より

- ・他の地域の進行や状況を知ることにについては、何となく、今日少しでもできたのでは。
- ・広報紙に関しても、その反響についてのアンケートをとる事ができているので、見えてきているのでは。
- ・区割りのことについても、都市マスとのからみもあるのでその情報を得ながら、少しずつ少しずつ。その委員もやっているの、意見を言いながら進めていきたいと思う。
- ・行政や議会の成果、自治基本条例を守っているかのチェックはした方が良いのでは。
- ・情報共有が偏っているのではないかと思う。出してくれているところは出してくれているけれど。チェックしないとダメ。

⇒東田ファシリテーター

まずは、この2つを重点的にやっていくことで。

チェックの方法も話し合う。スケジュールも話し合う。

方法を話し合わないとスケジュールも話し合えないので…。

⇒委員より

- ・意見交換会は、牧之原の「自治会組織のあり方検討」のようなものにも繋がっていくのではと思う。けんかになりそうだなあとも思う。
- ・意見交換会ができれば最高。
- ・『町内会はこう困っている』と問題提起ができれば、意見が出てくるのでは。
- ・どこが軸となって動くかが問題では。勝手にはできないし。
- ・逆に、期待しているのでは。仕切ってくれる人がいればいいと。

⇒東田ファシリテーター

今の自治推進会議が、ただ「自治推進会議です。意見交換をやりましょう」と言っても、意図が伝わらない。戦略的に考えていかないといけない。

⇒委員より

・『町内会の人数を増やす』ということの主にもっていくことができれば…

・ゆるやかなネットワークはどうか。この前の中標津小学校での防災の取組のように、まちづくり協議会で普段から風揚げなどをやっているの、団結してくれて、他の町内会も集まることができた。そこが1つの核になるのでは。普段、それぞれに町内会活動をやっていて、いざという時に集まれる。協力し合える。いいネットワークができていないかと思う。

・防災、子育て、学校の話は入りやすい。

・町内会毎で熱量が違うのではないかとも思う。少しでも、平準化できるといいなと思う。

・加入人数の違いもあるから、熱量の違いもあるのでは。

⇒委員より

・次回の会議では、『行政や議会の成果、自治基本条例を守っているかのチェック』について、どのようにして進めるかの方法論とスケジュールを作ってしまった方が良いのでは。がちり、そこをやっていった方が、よさそう。

⇒東田ファシリテーター

そして、最終目標は、『意見交換会』ということですか？喧嘩や再編じゃないけど挺入れ。

⇒委員より

・意見交換会については、町内会だけで良いのかどうか、参集範囲をもっと広くした方がいいのかどうかなど、考える必要があることはたくさんある。

・意見交換は、何回やってもいいのでは。別々のところと。

⇒東田ファシリテーター

そこに、市民ファシリテーター的な人がいて、「あの役割の人は何？」となってくれれば。

⇒委員より

・2021年頃に、またファシリテーターの養成講座をやってくれたらなと思う。5年目になるから。

★東田ファシリテーターより、

参加した講座についての紹介がありました。

2/16～17の2日間『参加型リーダーシップ』養成講座基礎版に参加した。  
去年の牧之原市では2泊3日の合宿にも参加した。

『市民ファシリテーター』や『参加型リーダーシップ』と名前がついているが、  
普段、自分達が思うものとは違っていた。会議ファシリテーターとは違う。  
後半で、一部、会議ファシリテーションのことは学ぶが、前半はそうではなかった。

↓

～牧之原市の市民ファシリテーターが、

「きたのわ」のファシリテーターと明らかに違うと思うところとして～

対人と、対自分に対して自問自答する。人の話を聞く。

人の話を聞く時はどういった姿勢で聞くか。そして、どういう姿勢で話さなければなら  
ないのか。そのことをひたすら勉強する一日。

人と向き合う姿勢は、心持ちはどうなのかということ。

会議の組み立てとか司会進行については、後半に少しだけで、会議ファシリテーション  
の講座ではなかった。参加型リーダーシップとは言うけれど、参加した感想としては、  
全く違う印象を受けた。

対話すること、逆に対話しなくていいことの差を自分の中できちんとつけることとか、  
人が人らしく、

意見が違うなという時にも、すんなり受け入れることができるようにとか、  
人と人との意見が異なることを認め合うこととか。生き方の問題のこと。

聞くことだけだと、『傾聴』だけになるが、

ここでは、『聞くこと』と『話すこと』とそして『書くこと』。

そのことを3人のグループで役割を変えながら進める。

そして、その状況をまた別の人が、どうだったか見ているというもの。

かなり複雑な講座だった。

会議ファシリテーションではない。

手法もいろいろ教えていただいたが、後から「なるほど」とも思った。

まだ、今の日本ではあまりない手法。

この手法についての世界的なネットワークもある。

前にこの講座をしたけれど、今この時にも『やり方を変えていきませんか?』と、進化しながら進んでいる手法という印象。

9月に牧之原市で講座を受けて、そして2月に受けた時には更にプラスになっていた。違うカテゴリーが増えているなど。

人と人が、お互いにセンシティブになり過ぎたり、対話を全然しなくなったり、SNSの普及、自殺問題、ネガティブな人や攻撃的な人が増えていることは、日本だけではなく、全世界的にそういう傾向があるから、「もう少しだけ、一昔前の、のんびりした社会に作り変えよう、作り直そう」という動きのひとつなのではとあって、話を聞いていた。いろいろな要素が混ざっているので、だからこそ、内容は説明しにくい。

講座を受けていたのは、年齢層も分野も様々な人達だった。

高校生、大学生や大学院生、大学の先生もいた。科学の分野の人も。

自分のように、普段、会議ファシリテーターをしている人もいた。

参加者からは、「講座を受けてみて、やっとわかった」という感想もあった。

⇒東田ファシリテーター

この町でファシリテーションの講座をするとしたら、こういうものではないかと思っている。会議ファシリテーションの講座ではないなと思っている。

⇒委員より

- ・そういう人達が育って、まちづくりにどんどん人が増えていったらいいですね。情報共有もできるし、協働もできるし。
- ・講座のテスト版が、できればいいなと思う。

フェイスブックのこと

⇒委員より

- ・フェイスブックのことは、どうなったか?

⇒事務局より

事務局としても話し合いをしたが、管理していくことが課題になっている。

また、仮に、立ち上げたとしても、  
定期的に更新していくことができるのかということもある。

↓

会議を開催したときには、ホームページで内容を報告させていただいているので、  
まず入り口として、町の代表フェイスブックを活用して、会議の内容がホームページに載ったこ  
との報告をさせていただいて、この先どのようにしていくことが良いのかということを考えてい  
きたい。これまでも、ホームページに掲載しても、なかなか見てもらえる機会が少ないというこ  
ともあり、その間口を広げて、「この項目が更新された」と目に見えるようにできればと。

ゆくゆくは、推進会議の体制が整えば、独自で立ち上げることもやぶさかではないと考えてい  
るが、一番の課題は、誰が管理していくかということ。情報量もある。

今現時点で、どういうことを載せたら良いのかということもある。

「直ぐに」とはいかない状況がある。

⇒委員より

・ホームページのトップページのお知らせが、数えるほどしか出ていないのではと思うが。

⇒事務局より

システム上は、各担当がページを更新すると自動的に表示され、リンク先に繋がるようになって  
いる。

⇒委員より

・せっかくページを更新しても、すぐに埋もれてしまってしまうのでは。

お知らせが、埋もれてしまうので、よくよく調べていって、やっと見つけるという感じ。

⇒事務局より

代表的なお知らせは、その月の広報紙でお知らせしている。

広報紙の情報とホームページの情報をリンクさせるとなると、あるものもないものがある。

⇒委員より

・そこが、まず『情報共有』の最初のところではないかと思う。

⇒事務局より回答

ホームページの更新のことで言えば、担当によって、定期的に更新しているところもあれば、  
そうではないところもある。

⇒委員より

・こういう視点からも「情報共有しているか？」ということをチェックしていかないと、進んで  
いかないと思う。

⇒東田ファシリテーター

ここですね！！ 成果チェックで、機能しているかを見ていく。さらにチェックして、改善の方向に進むようにもっていく。

議題については、ここで終了。

～番外編～

◆会議傍聴の方から、傍聴しての感想等を聞かせていただきました。

その中で、自治推進会議についての質疑応答等となった内容については、以下のとおりです。

○今日の会議で、ファシリテーターから会議の目的について、改めて提示されていたのか？との質問に関して…

⇒東田ファシリテーター

自治推進会議は、5年間の期間の委員なので、その目的もはっきりしている。スケジュール表にある『条例の見直し検討』ということも、知っている。その話は、前回の会議でもしているし、その前もしている。それに向かって何をするかということが、これからである。

5年の期間の中で、基本条例の見直し検討をして、町長に答申をするのが、この会議の目的。何も見直しをしないということもある。

「見直しをするからこう出します」という場合もある。出すためには、「じゃあ、何をしなければならないか？」ということで、例えば、来年度にチェックをするとか、意見交換会をするなどを決めて、自治が、どれくらい進んでいるかを見ていくこともある。そのことは、毎度、口を酸っぱく言っていて、委員さんもそれは分かっていること。そして、年度を通しての会議なので、その時の会議の一つひとつのお題は言うけれど、会議自体の目的は、言う必要がないので…。

⇒委員より

・本来は、会議の最初に言うけれど、ここでは省いているだけ。

○何をもち『推進』会議なのか、ゴールがどこなのか、との感想に関して…

⇒東田ファシリテーター

自治推進会議は、基本条例に位置づけられていて、条例の中でもはっきり決まっている。条例上の会議。

「自治基本条例」がどう進むかということではなく、中標津町の「自治」がどう進むかということ。そして、きちんと進んでいるかというところを自治推進会議の責任で見守っていくということ。

北海道の場合、市町村単位で自治基本条例があるけれど、中標津町もその中の1つ。自治推進会議のような、自治基本条例がどうなっているかを見守る会議がない市町村もある。ニセコ町のように何回も改正をして、ずっと育てているところもある。自治基本条例はあっても、何もしていないところもある。

中標津町は、きちんと会議を開いて、委員の皆さんが意見を言ってくれている。表面だって見えている変化はなくても、きちんとやっていると思う。これから動きそうな予感もする。

ファシリテーターの自分が「こうしたい」からではなく、事例を話して欲しいとの希望があったので、今日は話をした。委員の皆さんが決めている。勧めることはするが、委員の皆さんがどう考えるかということ。

#### (5) その他

事務局より、次回会議日程について確認しました。

※第3回 平成31年3月12日(火)

中標津町総合文化会館 第3研修室 で開催予定。

#### 4 閉会